

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1070800204 | | |
| 法人名 | 有限会社 グループホーム 渋川 | | |
| 事業所名 | グループホーム 渋川の家 | | |
| 所在地 | 群馬県 渋川市 金井 125-4 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年8月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様一人一人の残存能力を尊重し、ご自分で出来るところは自分のペースでやっていただき、できること、やらないこと、できないことを把握し、できないところをお手伝いさせていただく。利用者様に対して待つことの大切さを認識し、できるかぎりの自己決定権を尊重した自立支援のケアに努め、一人一人が明るく、楽しく、時がゆっくと過ぎて暮らせるよう日々努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年9月3日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「明るく、楽しく、仲良く、地域の中で安心して、人間らしく暮らし続ける」の「明るく」「楽しく」「仲良く」「地域の中で安心して」「人間らしく」各項目の意義を、全職員からアンケートを取り、その内容をケース会議で話し合い、統一した意義づけを行っている。次いで理念を日々の支援に反映するため再度アンケートで実践例を挙げてもらい、ケース会議で検討して、各項目の具体例を決め、意見の統一を図り日々の支援に繋げている。また、代表者や事務長・管理者の配慮が行き届き、職員はケース会議等で自由に伸び伸びと発言を行うなど、働きやすい職場環境の下で、常に笑顔を忘れず、「明るく、楽しく、仲良く」の理念に沿い、職員の明るい表情等が入居者にも反映されるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念の大切さ、意味づけを実施。掘り下げ作業にも取り組んで実践している。 | 理念の「明るく、楽しく、仲良く、地域の中で安心して、人間らしく暮らす」各項目の意義づけをケース会議で話し合い、各項目を実践するための具体策を再度ケース会議で検討し、意識の統一を図り、理念を日々の支援につなげる取り組みをしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 年初めの道祖神祭りの参加をし、一年おきに地域を変えて参加している。職員の参加ではあるが道路清掃にも年2回参加して交流を深めている。8月に地区のお祭りに参加、利用者も喜ばれていた。 | 自治会に加入し、認知症の理解を深めてもらうため「洪川の家通信」を回覧板で廻し、話し相手や将棋のボランティアを募集するとともに、道祖神祭りや夏祭り、有価物の資源回収に協力している。また、理念の「地域で安心して」暮らすための実践として、入居者が製作した「貼り絵」や「陶芸教室」の作品を地域の文化祭に出展する予定である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて認知症について勉強会を開いて地域の方々理解を深めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | グループホームでの出来事や防災訓練をしていることを知らなかった、広報を出したらどうかと運営推進会議を通して地域の方から意見があり、2年半ぶりに広報を発行。自治会長を通して回覧をもらった。 | 自治会長・副会長・書記・老人会長・民生委員や保健推進員等幅広い人達で構成されている。事務所の広報を発行し、回覧板で回覧して認知症の理解を深めることや、夏祭りに参加すること等の提案があった。また、夜間非常火災通報連絡に自治会の3役を電話登録することについて依頼し、理解を得る等地元との協力体制を築いている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 書類等の更新の時や運営推進会議の時など担当の方から情報を聞いている。またメールなどあった場合、全職員に回覧し捺印してもらっている。 | 各種更新書類や運営推進会議の議事録等を持参した際、空き室状況等の情報交換を行うとともに、生活保護対象者の新聞代購入費負担や居室に消臭のためのオゾン発生装置を設置する相談を行い実現するなど、入居者の処遇改善に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 現在2名の身体拘束の対象者がいるが、ほとんど行っていない。玄関の施錠について、施錠はしているが、一部の利用者について出たいときに施錠解除し外へ出ている。 | 夜勤者が入居者の世話で見守りができない時、家族の同意の下に、夜間に徘徊する入居者の居室に短時間であるが鍵を掛けることもある。また、線路が近く、事業所前の道路は車の通行量も多いため、安全確保の面から日中も玄関の鍵を掛けている。 | 身体拘束に伴い、入居者に与える身体的・精神的苦痛についてケース会議で話し合い、入居者の安全を確保しつつ、鍵を掛けない支援に取り組まれるよう期待したい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ケース会議においてケアマネより高齢者虐待について勉強会が開かれた。また事務長、管理者、ケアマネが事業所内での虐待がないかチェックしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 双方に該当する方が入居されており、月1回ではあるが、生活実態と健康状況を報告、相談している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | その都度、文書にして報告を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来所時に、意見を頂いた職員は要望書に書いて、全職員にその内容を回覧し捺印をもらっている。またその内容をケース会議に話し合い、結果を家族に報告をしている。前回の外部評価以降、2件の要望書が上がり、結果を家族に報告している。 | 面会時や毎月の利用料を持参した際に、「居室に手すりを設置してほしい」等、家族の希望や要望を聞き、要望書に記録の上、ケース会議で検討している。立ち上がり易いようベットに変える措置を取ったことなど話し合った結果を、家族に報告している。また、家族から幅広く意見を出してもらうため家族会の設置も検討している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のケース会議の中で話す機会を設けている。 | 毎月1回開催するケース会議で、職員の意見や要望を聞き、訪問看護を利用している病院を協力病院に追加したり、休憩時間を統一したりするなどの改善に取り組んでいる。また、管理者や事務長の配慮が行き届き、職員は何でも言える環境となっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている | 研修に行った職員はケース会議の中で成果を発表するようにしている。休憩時間について、なかなか休憩時間がとれていないことあり。ケース会議にて効率よく休憩をとっていくか検討中。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には管理者より認知症のケア、中核症状と周辺症状について勉強会を開いている。また地域密着型連絡協議会における研修には参加するようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 主に地域密着型連絡協議会における研修時に同業者との交流の時間を設けて下さっているため、参加するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご家族、病院や施設でなるべく多くの情報を頂き、最初の10日間は細かく情報を1時間おきに記録している。また利用者様の困りごとや不安などがあった場合、家族に相談、報告をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | なるべく家族の要望を可能な限り実現しようと努めている。また要望書のシステムも活用していきたい。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容に応じて状況判断を行い、必要なサービスを受けることができるよう支援している。また利用者様の要望などあった場合など、家族に連絡し、相談するようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 挨拶やお礼を大切に、個々の状態に応じて出来ることをしてもらい生活することで信頼関係を深めている。また声かけを大切に、利用者が抱える不安や孤独感を分かちあうようなケアを心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 訪問時には本人の状況を説明し、家族の意見も伺い一緒に考えていただけるように努めている。 要望書なども活用している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 毎月1回絵手紙を下さるボランティアの方に返事を出したりしている。 | 家族の協力を得て、墓参りや外食・馴染みの場所へドライブに出かけている。また、働いていた当時の仕事仲間が訪ねてきた際には、再度遊びに来てもらえるようお願いするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。さらに絵手紙のボランティアの人ともこれからの馴染みの関係づくりに繋がられるよう努力している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者が他の利用者の面倒を見てくださったりしていることもある。安全面を考慮し見守りしている。また利用者同士、ケンカすることあり。必ず職員が仲裁している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院となり退居した利用者様の家族に必要なに応じてフォローしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様の希望で新聞を4部購読している。また以前、新聞配達をしていたと夜中起きてくる利用者にもできるかぎりではあるが、無理な入眠の声かけをせず、本人の意向に沿ったケアをしている。 | 理念の「明るく」を、「入居者の自己決定を尊重し、職員と信頼関係を築き、笑顔で暮らせること」と定義し、実践する具体例として①悩みや話をじっくり聞く②一緒に考え、一緒に物事をする③不満ややりたいことを把握し、介護計画に反映する、また、「楽しく」の実践として①些細なサインに気づく②趣味や生きがいを見出し充実した生活を送る等の具体例を掲げ、入居者個々の思いの把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 上記にもある通りなど、馴染みの生活をできるかぎりではあるが、取り入れている。またご家族にも趣味や生活環境など、聞くようにして日常生活に取り入れている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者のできること、やらないこと、できないことなどの気づきや把握をするため申し送りノートを活用、全職員に捺印してもらっている。またケース会議で話合うこともある。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネより全利用者に対し月1回モニタリングに対してのカンファレンスを実施している。またその内容を全職員に回覧し捺印してもらっている。またモニタリングに対して結果、意見など書き込むようにしている。 | 毎週入居者2～3人についてモニタリングを行い、意見を交換し、必要に応じ会議計画の見直しを行っている。家族に説明の際に新たな希望があれば追記し、次回の会議で訂正し家族の了解を得ている。なお、家族や職員にわかりやすいよう改定箇所の色付けをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子、ケアの実践、気づきなどはその都度記録や申し送りノートを活用している。介護計画も回覧し捺印している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 救急搬送時の洪川中央病院との連携、訪問看護の連携で救急時、健康面をバックアップしている。また救急時のマニュアルも作成している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今年6月に元自治会長のご協力のもと、陶芸教室を開催。湯飲みを作った。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医のかかりつけ医が7名。残りの2名は協力医ではないが、別にかかりつけ医となっている。 | かかりつけ医の受診は原則家族対応であるが、家庭の状況により職員が対応することもある。また、病状により職員が同行し、状況の説明を行っている。協力医は月1回往診し、訪問看護師が毎週木曜日に来て入居者の健康管理に当たっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週木曜日、訪問看護が訪問している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 渋川中央病院と緊急時の提携を結んでいる。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 以前、看取り介護を行い利用者を看取った。またその機会があれば、施設内で勉強会を開きたい。 | 「重度化・終末期ケア対応指針」を作成し、家族が望み協力が得られること並びに協力医や訪問看護師の協力の下に看取りを行っている。看取りの状態となった時は勉強会を行い、症状等を確認し、家族や訪問看護師・職員で十分に話し合いつつ支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急マニュアルを作成し、7月のケース会議内において再確認を行った。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月1回担当者を変えて防災訓練を実施。毎月防災訓練通知書を消防署に提出している。 | 毎月、夜間を想定した避難訓練を行っている。年2回は自治会3役の人たちも参加し、消防署の立会いの下に指導を受け、入居者も参加する消火器の使用訓練を受けている。また、運営推進会議で夜間非常火災通報連絡に自治会3役を電話登録することについて協力依頼し、理解を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 可能な限り、利用者の尊重を心がけている。入浴、などの拒否が見られた場合は時間をおいて声かけ、翌日入浴など行っている。起床、就寝も無理な声かけはしていない。 | 入居者に関する家族との話し合いは、他の入居者に聞こえない応接室か居室で行い、プライバシーを損ねないよう配慮している。新規採用職員に対する入室時のノックや声かけ・入浴や排泄における尊厳やプライバシーの確保についての勉強会は行っていない。 | 新規に職員を採用した機会を活用し、全職員を対象とした研修会を開催されるよう期待したい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員本位で決めるのではなく、利用者本位で決定しているような声かけを心がけている。例えば、塗り絵をする、しない、塗り絵を二択にして選んでもらうなど。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 寝ていたい、テレビを観ていたいなど、可能な限りではあるが、本人を尊重している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 基本的に2ヶ月に1回(利用者の希望により毎月)散髪をしてもらっている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食は利用者と職員と一緒に食事をしている。またテーブルを拭いてもらったり、食器拭きやお盆を拭いてもらっている。 | 献立は食材業者が作成しているが、毎月15日をお楽しみメニューとし、入居者の希望を取り入れた食事を提供する他、季節に応じた行事食や近所の人から頂いた新鮮野菜を提供している。入居者は後片付けや食器洗い等を手伝い、職員は食事介助の傍ら同じ食事を摂り、会話しながら楽しい時間を共有している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量が低下している時は、その利用者様の嗜好品を本人、家族に聞き提供をしている。また、毎回ではないが利用者の嗜好品をおやつなどに提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 全介助の利用者はもちろんのこと、本人でできる場合も見守りをしている。また入れ歯は夜間ポリドントで洗浄している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自立している利用者様を除き、利用者様の排泄パターンを活かしてケアをしている。また尿意がない、トイレと認識できない利用者も、声かけしトイレ誘導している。 | 全入居者の排泄記録表により排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、リハビリパンツから布パンツに変わる等の自立支援に向けた取り組みを行っている。また、ラジオ体操やミキサーにかけたバナナ牛乳の提供等による、自然排便のための支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳を提供している。散歩やラジオ体操をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入りたいと希望された利用者様に対しても可能な限りではあるが入浴してもらっている。 | 入浴表に基づき週2回から3回の入浴を原則としているが、希望者には毎日入浴できる体制を取っている。入浴拒否する人には、「温泉」のれんを掛け「渋川温泉」に行きましょうと誘ったり、或いは日を改めて誘導したりするなど工夫している。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じられるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠くないときは無理に居室へは誘導していない。ホールにて一緒に過ごすようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者が薬を服用するまえに、職員同士で薬の日にち、時間、何錠あるかチェックし、利用者に服用するまえに、顔と名前をチェックし服用してもらっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 歌を歌ったり、塗り絵や編み物など一緒にしている。タオルたたみや洗濯干しなども手伝っていただける方には手伝ってもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や行事で外出している。また畑仕事をしたい利用者様には早朝より外へ出て草むしりなどをしてもらっている。 | 理念の「地域の中で安心して」の実践例として、「散歩の回数を増やす」とこととし、3通りの散歩コースを設定し、職員1人が2～3名を誘導し、元気な入居者が車椅子を押して散歩している。また、月1回の外出行事を取り入れ、花見やバラ園見物・老人センターでの昼食会・花木センターでのそうめん流し・リンゴ狩り等を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小銭程度ではあるが、所持している利用者もいるが、ほとんどの場合は事業所で預かり、随時希望に応じている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の状態によるが、家族からの電話があったときに、本人の調子が良かったので、職員が受話器をもって本人と家族が話すことができた。そのときは家族から喜ばれたことがあった。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関に季節の草花を飾っている。また季節に沿って折り紙を利用者と職員の共同作業をして、壁紙に貼っている。 | 壁には、職員と入居者の共同作業による干支のはり絵が飾られている。居間兼食堂のテーブルは仲の良い人同士に分けている。広いウッドデッキでは、流しそうめんを行ったり、鯉が飼育されたりしている。また、秋には近くの畑で栽培されている小菊が飾られる等居心地の良い共用空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気のあったもの同時の席替え、ソファーなど工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時はなるべく住み慣れたもの、使い慣れたものなど、お持ちするよう促している。 | 各居室にはテレビや家具類が持ち込まれ、ボランティアで交流している人の絵手紙が飾られている。消臭のためにオゾン発生装置が設置されるなど、居心地良く過ごせるよう配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室がわからない利用者には、なるべく見やすい位置に名札を貼る様にしたり、トイレもわかるよう工夫をしている。 | | |